

1 教職員研修（夏季実技研修会）について

平成29年8月3日、東温市立南吉井小学校において、情報教育委員会・視聴覚教育委員会合同夏季実技研修会を行った。研修会は、「子どもたちの学びが変わる！～タブレットを活用したこれからの授業づくり～」と題して、松山市立北久米小学校小田浩範教諭に講師を依頼した。参加者は30名であった。

(1) 新学習指導要領、いま求められている授業 資質・能力について



教師が教える授業から、児童が学ぶ授業に質的変換をする必要がある。

(2) タブレット端末について



タブレット端末は、スキルが必要でないため、気軽に使える。

撮影したり、書き込んだりして、自分の考えを入れてプレゼンテーションできる。

ここでは、タブレット端末を使って書き込み、自己紹介をし合って交流を深めた。

(3) 模擬授業① 「撮って書くだけ」

「身の回りの三角形を見つけて紹介しよう」

身の回りの三角形を見つけて写真を撮る。グループで、写真の中の三角形を確認する。

写真を電子黒板に送る。全体で発表・話し合いをする。



(4) 主体的・対話的で深い学びにつながる授業アイデアについて

砥部焼のひみつ 写真撮影・書き込みをし、プレゼンテーションをする。

身のまわりの二等辺三角形を見つけ、紹介しよう。

てこのはたらきを、写真に書き込むことで、支点・力点・作用点を確認する。



(5) 模擬授業② 知識構成型ジグソー法「昆虫のからだを調べよう」

3人でグループを構成し、あたま・むね・はらの3つのチームに一人ずつが分かれ、それぞれでポイントを学ぶ。カブトムシは、最初、節を見て、あたま・むね・はらを見つけていたが、3つのポイントを学んだ後、グループに戻って発表することでからだの正しい分け方を理解することができ、力を合わせて問題を解決する学習を行うことができる。

タブレット端末は、話し合う媒体・表現の道具とし、個・小集団・全体を行き来する学習を進めることで、教師が教える学習から、子どもが学ぶ学習へと質的変換を行い、授業改善をすることができる。



(6) プログラミング教育について

プログラミング教育とは、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせることで、論理的思考力を身に着けさせるための学習活動である。考え方を可視化したり、考えを客観的に捉えたりする力を育てることができる。今回の研修会では、「Scratch」で簡単プログラミングを行った。



(7) 振り返り・まとめ

I C T機器の活用によって、教師が教える授業から、児童・生徒が学ぶ授業へ質的変換していかなければならない。

2 成果・反省

主体的・対話的で深い学びとはどんなものか、そのツールとしてのI C T効果的な活用について学ぶことができた。今後、各校に配置されていくタブレット端末をどう生かしていくか、更に研究を進めていく必要がある。